地域づくりの現場を訪ねる〔第６回〕

枚方宿地区まちづくり協議会（大阪府枚方市）
－手づくり市開催等による自治会を中心とした宿場町の賑わいの復活･景観保全－

一般財団法人国土計画協会専務理事　太田 秀也

１．枚方宿地区まちづくり協議会の活動

枚方宿地区まちづくり協議会（以下「協議会」という）は、大阪府枚方市（人口391,559人（令和７年６月１日現在））において活動する任意団体である。

枚方市は、東海道品川宿から数えて56番目（東海道53次が江戸時代に延伸された）の宿場町「枚方宿」を中心に、京都と大坂を結ぶ淀川の三十石船の中継港としてもにぎわい、現在は京阪電車やJR線、国道１号などが市内を走り、大阪や京都へのアクセスの良い都市である。

協議会は、歴史と文化を色濃く残す枚方宿（東西約1.5km、街道道幅約4.5m）において、地域の歴史を生かし、地域住民が誇りをもてる活気と魅力のあるまちをつくることを目的として、2000年６月に設立され、枚方宿の賑わいを取り戻す活動に取り組んでいる。

その活動により、2005年度に地域づくり表彰・全国地域づくり推進協議会会長賞を受賞している。

以下、活動の概要を、協議会HP、協議会から提供された資料等の情報をベースに紹介する。

(1) 活動開始のきっかけ
―活動開始から26年目―

枚方宿の歴史的町並みを保全するため、枚方市が1999年度に枚方宿を国土交通省の「街なみ環境整備事業」の対象とし、地域における推進組織として「枚方宿まちづくり協議会」が2000年６月に設立されたのが活動の始まりである。

その後、2001年には、枚方宿地区の持つ歴史を活かしうるおいと安らぎのあるまちづくりを実現するために、地域住民の手で取り組むまちづくりの住民共通の指針として「枚方宿地区まちづくり協定」を策定した。

2002年度から枚方市による町屋の修景助成、案内サイン整備、道路美装化、無電柱化等の事業が、協議会と連携の下で進められてきている。

(2) 現在の活動内容
―部会設置による自治会・市等と連携した多様な活動展開―

協議会は、自治会、商店会をはじめ地域の関係団体（枚方青年会議所、宿場町枚方を考える会、枚方文化観光協会等）、住民等で構成され、会長（現会長は三代目で田中誓子氏）等役員の下、以下の部会及び事務局（事務局長茨木昭雄氏）を設置し、２で記すように、自治会、枚方市等と連携し、協力・支援を受けながら活動を展開している。

①まちづくり協定運営部会（2001年発足）

建築物の新築等の計画について、「枚方宿地区まちづくり協定」に基づき建築主と協議を行うとともに、市の修景補助制度を活用した歴史的景観の保全整備について協力を求めている。

②街道菊花祭部会（2002年発足）

枚方市の花である菊の大菊三本仕立て約200鉢を街道沿いの家の軒下に飾る「枚方宿街道菊花祭」や、俳句大会の開催を行っている。あわせてガーデニング実行委員会を設け、街道沿いの家に同じ花の鉢植えを飾る活動を行っている。

③町屋情報バンク部会（2006年発足）

町屋情報バンクを介して町屋を貸したい人と借りたい人を結び、空き家を活用した地域の活性化の活動を行っている。

④くらわんか五六市〔ゴロクイチ〕部会（2007年発足）

毎月第２日曜日にコダワリのモノが揃う手づくり市を開催している。

（なお、「くらわんか」とは、三十石船に乗って枚方宿にやってくる客に「餅くらわんか、酒くらわんか」と酒肴を茶碗で売る煮売茶船である「くらわんか舟」に、「五六市」は枚方宿が東海道56番目の宿場町であることに由来している。）

2．インタビュー、現地調査

2025年３月９日に開催された五六市を訪れ、現地で協議会の田中会長（写真右端）、茨木事務局長（左から二人目）など協議会のメンバーの方々にインタビューを行うとともに、現地調査を行った(なお､田中氏は枚方宿で老舗和菓子店を営われており、茨木氏は地域の自治会の会長、枚方市全体の校区コミニュティ協議会の会長をされているということであった)。

写真１　五六市本部前で　（写真は筆者撮影）

(1) インタビュー

①協議会の取組について

協議会の活動の経緯、特徴などについてお教えください。

当初は行政の街並み環境整備と連携して建物などハード面中心の取組を行っていましたが、修景整備にとどまらず、地域に賑わいを取り戻すという目的で、五六市の開催等、ソフト面での取組も行っています。

様々な取組をされていますが、メインの取組はどのようなものですか。

現在のメインの活動は五六市の開催です。

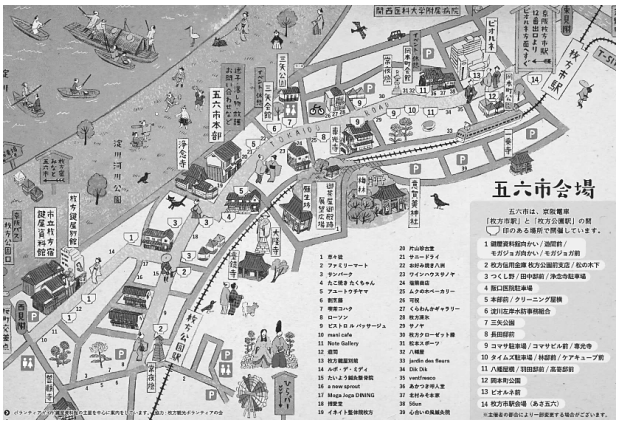
町屋情報バンクでは、設立後、町屋活用でレストラン、カフェ、雑貨店等の開店につながりましたが、現在では、町屋に空き家が出ても、不動産業者などによって売却なりテナント付けが行われるので、(空き家が発生しないという面ではいいことですが）町屋情報バンクの事業の実績は現在ではほぼありません。

また、かつては賑わい創出のために、ジャズ演奏を行う「枚方ジャズストリート」という事業も行っていましたが、現在は協議会から独立した主体により継続され行われています。

②五六市について

五六市開催のきっかけをお教え下さい。

町屋情報バンクに登録されている物件数に比べ入居希望者が多いことから、少しでも多くの方に枚方宿に出店してもらい、地域の賑わいを蘇らせるため、開催しようということとなりました。他の事例（京都の百万遍の知恩寺で行われている手づくり市等）を参考にし、2007年３月から開始し、(コロナ禍では一時休止したが）今年で19周年目を迎えています。



五六市会場全体図（協議会HPより）

五六市の運営内容などについて詳しくお教えください。

毎月第２日曜日10：00～16：00に、京阪本線枚方市駅から枚方公園駅の間（1.2km）の街道を車両通行止めにして、街道沿いの町家の軒下や空きスペースにテント等で店舗を設け、手作り雑貨等を販売する市を開催しています。

出店者は毎回200店舗程度あります。最初は50店舗程度しか出店がなく心配していましたが、五六市が評判を呼び、出店者の口コミ等もあって、出店者が増えました。出店店舗としては、クラフトが多く（布製品、アクセサリー等。170～180店舗程度)、あと飲食関係となっています。市内・大阪府内だけでなく近隣県（神戸、淡路島等）からの出店もあります。

来場者数は回によって違ってきますが、５千～８千人程度あります。

収支面では､収入は出店料です(一番多い２ｍ×２ｍのブースで５千円、キャンセル料は半額等)。費用は、毎回70万～90万円程度で、内訳は事務経費（出店受付システム等)、警備員経費等です。自治会からの依頼で、地域内の駐車場や軒先を無料で使わせていただいているので、土地の使用料はかかっていません。収支的には、毎回20万円～０円程度です（雨などの場合は出店のキャンセルがあり収支は悪くなります)。

2015年６月に、活動の継続を目的として「一般社団法人枚方宿くらわんか五六市」（代表理

事田中誓子氏）を設立し、五六市の運営事業（出店受付等）を担ってもらっています。

他の事例では、道路使用等で調整が大変だという声をききますが、そのあたりはどうですか。

枚方宿の街道は市道で、市により道路占用、道路使用等の調整の支援をいただいています。

また、車両乗入禁止、土地の利用等について、住民の方の理解・協力を得るのに、自治会の方に尽力いただいています。

③取組が継続している要因

協議会設立から26年目になりますが、取組が長く継続している要因はどのようなことが考えられますか。

協議会の各メンバーが対等の立場で、いわば円形となって、責任感を持って取り組んでいることが挙げられます。また、何より、各メンバーが、枚方宿の歴史、賑やかな街並みを継承していくという、地域への思いをもっていることだと思います。

加えて五六市については、運営が赤字となっていないこと、出店者も売上を上げられ、様々な店舗の出店が続けられていることも挙げられます。

④取組の効果（地域への効果など）

取組の効果はどのようなものがありますか。

地域に賑わいが生まれています。

また、地域の店舗の方も、当初は日曜日で営業されていないお店もありましたが、五六市で地域に来場者が増えたことで、お店を開いて営業される店舗も多くなっています。

⑤取組の今後の展望（新たな事業展開など）

今後のめざす方向や新たな事業展開の構想があればお教えください。

五六市開催で月１回、地域に賑わいがでていますが、五六市開催日以外でも賑わいがある程度継続することを考えていきたいと考えています。

また、2019年８月からは竹燈篭を飾るイベント「五六のあかり」を地域の公園で開催していますが、街道沿いの家々にも灯りをともすように、範囲を広げていければと考えています。

⑥活動継続について

活動の継続のために後継者の育成が重要だと思いますが、お考えをお教えください。

活動を担う若手が育っていて、引き継げる体制となっています。

⑦地域づくりを行う団体への取組のヒント等となるアドバイス

これまでの取組を踏まえ、地域づくりを行う団体への取組のヒント等となるアドバイスがあればお教えください。

地域の住民・団体が、地域への思い・誇りを持って、主体的に対等な立場で取組を行うことが重要だと感じます。

（2）現地調査

ⅰ）五六市

当日は、約200店の出店があり、来場者は約5,700名であったとのことである。

街道に店舗が出店されるが（**写真２**）、駐車場（**写真３**）、住宅の軒先（**写真４**）、公園等の土地も利用し、出店スペースが確保されている。

写真４は京都市伏見の方で、10年くらい前から自家製の漬物の出店をされている、**写真５**は京田辺市の方で、手作りの小物陶器の販売（農業もされていて米、野菜も販売）をされているが、2007年の第１回から出店されているとのことである。

写真２

写真３

写真４

写真５

ⅱ）町屋情報バンク

町屋情報バンクを活用して開店した店舗も紹介いただき、お話を伺った。

写真6，7は、貸家であった町屋を改装したレストラン・カフェ「Moga Jaga」で、若い方の働き口確保にもつながっている。午後3時過ぎであったがお客さんでいっぱいであった（このお店でジャズの演奏も続けられている）。

写真6

写真7

写真8，9は、農家住宅であった町屋を改装した雑貨店「Repos de midi」で、アンティーク雑貨等が販売されている。オーナーの宮地さんはインテリアデザイナーで、外装・内装のデザインも自らされたということであった。

写真8

写真9

ⅲ）その他

枚方宿の歴史等の展示をしている市立枚方宿鍵屋資料館（江戸時代は枚方宿の宿屋「鍵屋」であった建物）を訪れ、枚方文化観光協会の西村氏にお話を伺った。市においても枚方宿の歴史を伝えることを重視されていることが伺えた。

3．まとめと若干のコメント

以下、枚方宿地区まちづくり協議会の取組のポイントと思われる点をまとめるとともに、若干のコメントをしたい。

(1) 取組のポイント

本誌2024年1月号50項以下において、「地域づくり表彰の表彰事例の整理・分析」として、これまでの地域づくりの取組事例を整理・分析したが、その内容も踏まえ、協議会の取組をみると、以下のようなポイントが挙げられる。

①取組の位置づけ

地域の歴史的町並みの維持・活用等を行う「地域活動」（同誌53頁参照）であり、活動のきっかけ・経緯は「地域資源の活用」（同誌52頁参照）と位置付けることができる。

②取組の継続性・発展性

当初はハード事業の取組であったが、五六市など地域に賑わいを生むソフトの取組も加え、五六市は19周年目を迎えるなど、活動の継続性がある。さらに、活動継続のために一般財団法人を設立したり、「五六のあかり」等の新たな取組も加えるなど発展性も見られる。

活動継続の要因としては、協議会のメンバーが対等の立場で、各人が責任感を持って取り組み、世代交代も進んでいることが挙げられる。

加えて五六市では、地域の協力・理解により、土地使用料無料など少ない費用で運営し、赤字となっていないことも挙げられる。

(2) 若干のコメント

本誌でこれまで紹介した取組は主に人口の少ない地域での取組であったが、本取組は人口約40万人という大都市における取組であること、宿場町という地域資源を生かし、賑わいを復活させる取組であることが特徴として挙げられる。

近年、都市部等では自治会・町内会の活動・機能の低下が指摘されるところであるが、本取組においては、自治会を中心とした活動が地域の賑わいの復活等に役割を果たしてる点が注目される。

加えて、（自治体の事業の関係で協議会が発足した点も関係していると思われるが）地元自治体である枚方市が、本取組に理解を示し、連携・協力（五六市開催のための道路使用、市立資料館による街道の歴史の継承等）して取組を進められている点も注目される。

課題のような点は特段見当たらないが、敢えてあげるすると、インタビューの中でも述べられていたが、五六市の賑わいを継続的に地域の賑わいにつなげる取組（関係人口の構築等）も検討していくことが望ましいのではないかと考えられる。

※本稿の内容は、筆者の見解であり、筆者の属する組織及び地域づくり表彰主催団体としての意見ではないことを申し添える。